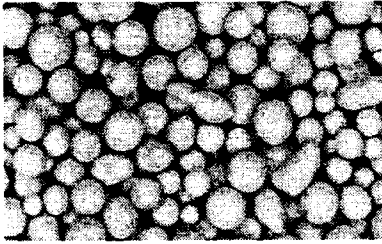


前澤工業

山形県の  
民間施設

# MIE X<sup>®</sup> 初採用に 色度除去・コスト評価



MIE X<sup>®</sup> 粒子拡大写真

前澤工業（松原正社長）はこのほど、溶解性有機物除去システム「MIE X<sup>®</sup> 処理システム」の国内第一号機を、森永エンジニアリングと仮契約したと発表した。同システムは、山形県食肉公社の用水処理設備に納入される。

今回の納入予定のシステムは、処理能力60立方メートル/時で、用水原水中の有機物由来の色度除去を目的としている。従来、用水処理設備で原水に利用してきた地下水は、色度が高くRO膜処理設備に高負荷がかかっていた。

そこで森永エンジニアリングは、色度除去能力に優れたランニングコストも低減できる「MIE X<sup>®</sup> 処理システム」に着目。同システムを組み込んだ処理フロー

を山形県食肉公社に提案したところ、採用に至った。用水処理設備の全体更新にあたっては、森永エンジニアリングが全体のプランニングと施工を実施。運転管理も行う予定。前澤工業は同システムの納入を行う。システム稼働は、来年春の予定。

同システムは、オーストラリアのオリカ社が開発した、帯磁性イオン交換樹脂を用いた水処理システム。DOCや有機性色度の除去能力などが評価され、上水道用前処理設備として45カ所余の受注実績がある。

国内では、平成19年に前澤工業とオリカ社が技術ライセンス契約を契約。同契約に基づいて前澤工業が販売を開始してから初の受注となる。

同システムは、平成19年に水道技術研究センターの技術評価認定・浄水施設の第一号（浄評価第30001号）を取得している。

前澤工業では、「今回、初採用されたMIE X<sup>®</sup> システムは民間施設向けであるが、水道原水にもさまざまな物質が流入するようになったことを受け、浄水処理施設からも問い合わせが増えてきている。これに対し当社では、技術的サポートを行うなどして、上水道施設および民間の水処理施設に対する提案を強化させていきたい」と話している。

日本水道新聞 平成23年10月27日付

※本掲載につきましては、株式会社日本水道新聞社様より記事使用許諾をいただいております。